



イタリア天空の調べ (Melody of the Firmament in Italy) 2006

# Melody of the Firmament

Journal of Koji Kinutani Tenku Art Museum

## 天空の調べ (絹谷幸二 天空美術館 機関誌)

2019.07

vol.1

### 機関誌の発行にあたって

「皆さんが普段、野菜・果実・肉・魚などカラフルな食材を食べて元気になるように、この美術館では目から色彩を吸収していただき脳の活性化を促し元気になってもらいたい」これは名誉館長である絹谷幸二が自身の作品解説をする際、必ず口にする言葉です。そして、私たち絹谷幸二 天空美術館も同様に、ご来館された一人でも多くの方々に、エネルギーに満ち溢れた絹谷藝術に触れ、また大阪湾を見渡す壮大な景色を眺め、日常や現実から一旦離れて元気になっていただくことを目指して日々活動しています。

この機関紙「Melody of the firmament / 天空の調べ」は、そんな皆さまの美術館活用の一助になるよう、展示キャプションを見るだけでは知り得ない、少し深掘した情報の配信など展示作品をより興味深く鑑賞いただけるようにと思いを込めて発行いたしました。

芸術鑑賞においては一概に豊富な知識が必要かという点も必ずしもそうではなく、特に絹谷作品ではその豊かな色彩表現、

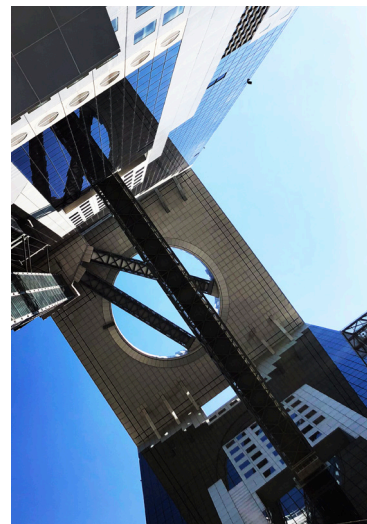
躍動感に富んだイメージ世界によって、作品についての知識がなくとも自ずと作品世界へ引き込まれます。そうした感動体験は貴重であり、芸術鑑賞の醍醐味でしょう。しかし、そこにさらに知識・情報を加味することによってこの感覚的な感動体験とはまた異なる視点から、作品が持つ緻密さや繊細さ、技術の高さを感じることが出来、そこに感動が生まれる事も事実であると考えられます。

作品を観て感動する事は、感動する自分自身と新たに出会う事でもあります。その出会いが創造力の源となり、元気になることへの“種”となります。

この天空美術館、そして絹谷幸二の作品にはそうした種が沢山詰まっていると確信しています。私たちはご来館頂く皆さまに、なるべく多くその種を見つけ、新しい自分と出会う感動体験をしていただきたいと考えています。この機関誌はその副次的な役割を担うものと位置づけ、定期的に多様な視点からの情報配信に努めていく所存です。

## 絹谷幸二 天空美術館 沿革

- 2015年12月 積水ハウス株式会社と文化功労者 絹谷幸二による美術館構想
- 2016年8月 美術館開設準備室設置
- 2016年8月 梅田スカイビルタワーウエスト 27階に美術館施設着工
- 2016年12月 完成 同23日開館 「開館記念展」
- 2017年8月 特別展示「アフレスコの傑作『光ふる街』初公開」
- 2017年12月 特別展示「歓喜あふれる時～歌・食・愛、そして藝術～」
- 2018年3月 特別展示「平和へのメッセージ～情熱・元気・祈り～」
- 2018年6月 特別展示「梅田スカイビル誕生 25周年 天空夢譚～驚天動地の空中庭園」
- 2018年12月 特別展示「開館2周年記念 夢見る力～空想大劇場」
- 2019年7月 特別展示「時空大旅行～理想郷を求めて～」



ワンダースクエアから見上げた梅田スカイビル

## 絹谷幸二 略歴

1943年奈良県出身。東京藝術大学を卒業後、大学院壁画科を経てイタリアへ留学し、アフレスコ（壁画技法）を学ぶ。帰国後の1974年には歴代最年少にて安井賞を受賞する。

多彩な技法、豊かな色彩を駆使したエネルギーに満ち溢れた独自の画風で、1987年に第19回日本芸術大賞を受賞、1997年には長野冬季オリンピック公式ポスターの原画制作、また2014年には文化功労者として顕彰されるなど、日本の現代画壇をリードする存在。

さらに自身の創作活動に留まらず、外務省主催の「日本ブランド発信事業」への参加、若手画家を対象とした「絹谷幸二賞」の創設、文化庁の「子ども 夢・アート・アカデミー」に参加するなど後世への教育活動にも力を入れている。



© 海田悠

## アフレスコとの出会い～日本におけるアフレスコ第一人者と呼ばれるまで～

絹谷幸二がアフレスコを描ききっかけとなったのは、東京藝術大学油画科3年次の頃に目にした奈良・法隆寺の壁画であると言われています。1949年、法隆寺金堂で火災が発生し、保管されていた多くの壁画が焼損する災禍が起きました。その後、柱や壁画は後世への教訓の為、そのままの配置で収蔵庫に保管されていましたが、1964年、絹谷は古美術研修で特別にその収蔵庫を見学し、焼けただれた柱や壁に憂き目をみるとともに、劫火をくぐり抜けた壁画の存在感と訴求力に衝撃を受けたのでした。朽ち果てた法隆寺に無常を感じ、全てのものは朽ちていく運命を悟りながらも、燦然と輝く壁画から人が未来永劫続くものに希望を託し、祈ることを知るのでした。

その後、絹谷は油画科を卒業し大学院壁画科へ進み、講義を受けたブルーノ・サエッティ教授に招かれヴェネツィア・アカデミアに留学し、アフレスコの本場であるイタリアで壁画の修業を積みます。『リンゴ飛行』や『想う女』など当時の絹谷スタイルを代表するアフレスコ作品も数多く制作し、リンゴ・シリーズでは1971年にベヴィラックア・ラ・マーサ財団主催の展覧会に出品されラ・マーサ賞を受賞、その後もヴェネツィア美術館での個展開催など精力的に活動を行います。1972年、奈良県明日香村の高松塚古墳で「飛鳥美人」が発見されたことをきっかけに壁画の保存対策委員を文化庁より依頼され、ローマの中央修復研究所で学んだ後に帰国。帰国後の1974年、アフレスコ作品『アンセルモ氏の肖像』（東京国立近代美術館蔵）によって第17回安井賞を受賞し、“絹谷幸二”の名とともに“アフレスコ”を全国に印象付けることになりました。



リンゴ飛行（窓辺） Flight of the Apple (Through the Window) 1971  
アフレスコ・ストラッポ Fresco and strappo on canvas

後に絹谷は自伝の中で「形あるものはいつか壊れるという仏教の無常観は、奈良の少年時代から私の体に染みついている。命はいずれ消える。しかし、もしなくならないものがあるとすれば、それは人の『心』であり、夢である。その思いは、私のすべての作品に通底しているテーマである」と述べています。絹谷が制作するアフレスコ作品にはそうした一貫した思いが込められているのです。

# アフレスコ (affresco) とは

アフレスコ (affresco) とはイタリア語の “fresco” (新鮮な) を語源に持ち、日本語で言うフレスコ画のことを指します。またそのフレスコ画とは古くは紀元前から存在する壁画の古典的な技法であり、現在の主流である油彩画誕生以前には多くの芸術家によって用いられた絵画技法です。イタリアルネッサンスの巨匠であるジョット・ディ・ボンドーネやミケランジェロ・ブオナロッチェ、ラファエロ・サンティもこのアフレスコで様々な作品を残しています。

アフレスコは生乾きの漆喰を壁面に塗り、漆喰が乾ききらない内に水で溶いた顔料で直に絵を描く技法であり、一般的な絵の具 (油彩画やアクリル画) など糊の役割を果たすメディウムを使わないことが特徴です。生乾きの漆喰が乾燥する過程で顔料は石灰層の中に吸収され、乾燥後は表面にガラス膜のような固く透明な結晶ができ、それが保護層となるため、アフレスコは長期間 (数千年とも言われています) 色褪せない堅牢な画面へと仕上がります。さらに、結晶に閉じ込められた顔料は顔料自体が持つ明るく強い発色を放つため、その色彩の鮮やかさもアフレスコの特徴とされています。

生乾きの漆喰は約 24 時間で乾燥しますので、アフレスコの絵画制作は迅速さを要求されます。基本的には入念に想を練り同寸の下絵を作成した上で、一気に描き上げます。まさに寝食を忘れた制作と言えましょう。

そのため、絹谷幸二の作品もルネッサンスの巨匠たちが描いた鮮やかなイメージ世界と等しく、一気呵成に生み出されたエネルギッシュなアフレスコ作品が多く見られます。

そのために、絹谷幸二の作品もルネッサンスの巨匠たちが描いた鮮やかなイメージ世界と等しく、一気呵成に生み出されたエネルギッシュなアフレスコ作品が多く見られます。



想う女 Thinking Woman 1972 ~ 3  
アフレスコ・ストラッポ Fresco and strappo on canvas

## アフレスコ画家紹介 Part1

### ミケランジェロ・ブオナロッチェ (Michelangelo Buonarroti 1475-1564 フィレンツェ)

ミケランジェロ・ブオナロッチェはレオナルド・ダ・ヴィンチやラファエロ・サンティと並び盛期イタリアルネッサンスの巨匠と呼ばれ、彫刻家、画家、そして建築家として偉大な業績を残しています。

当時、豪華王と呼ばれたロレンツォ・デ・メジチに見出され、ロレンツォの庇護の下に彫刻を本格的に学び、その才能を開花させました。深い教養と鋭い批判精神で、自由自在のイメージ世界や理想美を描き出し、当時の芸術の在り方を大きく進展させた西洋美術史上においても最も重要な芸術家の一人です。

古代ギリシアのヘレニズム彫刻に多大なる影響を受けたミケランジェロの作品では、特に『サン・ピエトロのピエタ』や『ダヴィデ』など量塊感や躍動感溢れる大理石彫刻が有名ですが、バチカン市国にあるシスティナ礼拝堂の天井画、それと対をなす祭壇上の大壁画『最後の審判』が代表するような、情動的な人体の動きに着目しダイナミックな構図で人々を魅了する、神がかったアフレスコの大作も残しています。

システィナ礼拝堂 (ヴァチカン市国) ▶  
ヴァチカンミュージアム内 ▼





## ワークショップ 「アフレスコを描く」のご案内

絹谷幸二 天空美術館では月に一度、アフレスコの体験が出来る人気のワークショップ「アフレスコを描く」を開催しています。

漆喰を塗った煉瓦を壁に見立て、その上から自由に絵を描いていきます。体験前にはキュレーターによる展示解説を行いますので、解説を聞きアフレスコについての知識を深め、また展示作品を鑑賞する事によってイメージネーションを養った後にアフレスコ体験を楽しむことが出来ます。大人から子ども

まで皆で楽しめる、

画用紙やキャンバスに描くのととはひと味違ったアフレスコ体験で、100年～200年と残る思い出作りを体験してみませんか？

開催日時などの詳細は下記 QR コードまたは、公式ホームページよりご確認ください。



【QR コード】

夏休みは家族そろって  
アフレスコ体験で思い出作り！

【公式ホームページ】

<https://www.kinutani-tenku.jp>



## 編集後記

私ごとで恐縮ですが、この美術館に着任し早くも1年が経ちました。アシスタントキュレーターとして勉強真ただ中ではありますが、ワークショップを中心に教育普及の業務を担当させて頂いている影響もあり、この1年は鑑賞教育という分野に興味を持つ事が出来ました。色々と深くて熱い領域ですので、詳細は今後の機関誌でご紹介出来ればと思います。

そうした影響もあり、冒頭の「機関誌発行にあたって」では少し堅苦しい挨拶文になってしまいましたが、この機関誌は一方的な情報配信やキュレーターが論じる場ではなく、是非、天空美術館に関わる全てのスタッフ、そしてご来館いただいたお客様とコミュニケーションを図りながら継続していければと考えています。

そのため、ワークショップスペースに「機関誌ご意見箱」を準備させて頂きました！ご意見、リクエスト然り、忌憚のないご意見をどしどしお寄せいただき、皆さまと一緒にこの「Melody of the firmament / 天空の調べ」を作っていければと考えています。

尚、次号は12月頃、「3周年記念特別展示」に合わせた時期の発行を予定しております。

(絹谷幸二 天空美術館 アシスタントキュレーター 高橋 暁生)

2019年7月14日発行 Melody of the Firmament / 天空の調べ vol.1

編集・発行 絹谷幸二 天空美術館

大阪市北区大淀中 1-1-30 梅田スカイビル タワーウエスト 27階